

※ 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。問いに字数の指定がある場合は句読点や記号も一字に数えて解答すること。

1 次の文章は、高校一年生の「ナツミ」と同級生の「マキちゃん」が会話をしている場面である。二人は小学校を卒業して以来疎遠になっていたが、下校途中にバス停で再会した。バスの中で、二人とも「不幸の手紙」を受け取っていることが判明し相談していたところ、突然うしろの席のおばさんから「出さないとあとで後悔するようなことが起きる」ので出した方がいいと忠告された。これを読んで、①～⑥に答えなさい。

バスが発車すると、マキちゃんが小さな声で訊ねてきた。

「手紙、いつ来たの？」

「えーと、三日前」

「うちも三日前」

④ 本当だろうか。もしそうだとしたらマキちゃんが出したのではないということになる。

「もう、時間がないよね」

マキちゃんが憂鬱そうに言った。

「まあね」

「まあねって、明後日までに出さなくちゃいけないんじゃない」

「どうして」

「あれって、五日以内に出さないといけないんですよ」

「五日以内？」

「五日以内に出さないと不幸になるって書いてあったでしょ」

「五日以内なんて書いてなかった」

「うそ」

「ほんと」

「じゃあ、なんて？」

「一週間以内に出させて」

「五日以内に三人に出せ、でしょ？」

「違うよ、一週間以内に五人に出すの」

⑥ そう言ったとき、ナツミはすごく重要なことに気がついた。

「そうか、別の種類の不幸の手紙なんだ」

マキちゃんも弾んだ声で言った。

「違う人から届いたんだ」

だとすれば自分のところに届いた不幸の手紙はマキちゃんが出したのではないということになる。マキちゃんの声が弾んでいるのも、わたしが出したのではないとわかったからかもしれない。わたしが疑っていたのだからマキちゃんがそう思っていたとしても不思議ではない。

「いいなあ」

マキちゃんが羨ましそうに言った。

「何が」

「そっちは、一週間に五人でしょ、こっちは、五日に三人だからたいへんだよ」

「どっちも、よくないよ」

そう言いながら、ナツミは思っていた。出さなかったら本当に不幸が訪れるのだろうか。うしろに座っていたかわいそうなおばさんのように。

でも、たぶんそうじゃない。あのおばさんが不幸の手紙を出さなかったから子供が死んだんじゃない。出しても出さなくても死んだに違いない。かわいそうだけど、その子はそういう運命だったのだ。

おばあさんがかわいそうなのは子供が死んでしまったからではない。もちろん子供に死なれるというのはとてもつらい経験だろう。でも、人が生きていく中で、大切な誰かを失うということは絶対にありえないことではないはずだ。おばあさんが本当にかわいそうなのは、子供が死んだのは自分が不幸の手紙を出さなかったからだと思うことだ。そうやって、いつまでも自分を責めていることだ。誰が出したか知らないけれど、その人はどれほどひどいことをしたかわかっているのだろうか。

もしわたしが五人に出すとすれば、その人たちをあのおばさんと同じような悲しい目にあわせてしまうことになるかもしれない。

やめよう、とナツミは思った。④ わたしは出すのをやめよう。たとえ、お父さんとお母さんが離婚するようなことになっても、期末試験の結果が絶望的なものになっても、それ以外に思いもよらないような不幸に見舞われても、それを不幸の手紙のせいにするのはよそう。不幸の手紙を出さなかったからだなんて決して思わない。それはそうなる理由があっただけなのだ……。

⑥ 気がつく、次はナツミが降りる停留所だった。慌てて窓の横についている降車用のプザーを押した。マキちゃんはその次の停留所で降りるはずだった。バスが停まると、通路側に座っているマキちゃんが席を立ててくれた。ナツミが出やすいようにしてくれたのだろうと思っていると、小さな声で言った。

「わたしも降りる」

どうしてかナツミには理由がわからなかった。

開いた降車用のドアからまずマキちゃんが降り、続いてナツミが降りた。

マキちゃんは降りたところに立ち止まり、バスが発車していくと、きっぱりとした口調で言った。

「わたし、出さない」

それを聞いてナツミは嬉しくなった。そして、マキちゃんと同じようにきっぱりと言った。

「わたしも、出さない」

二人は顔を見合わせると、少し照れたように笑い合った。

「じゃあね」

マキちゃんはそう言って、次の停留所の方に向かって歩きはじめた。

「じゃあね」

ナツミもそう言って、反対の方向に歩き出した。

歩きながら、ナツミは自分の気持が明るくなっていくのがわかった。そして、こう思った。わたしたちは背中を向けて反対方向に歩いているけれど、⑥ 小学

生のとき一緒に神社に行ったときのように手をつないで歩いているような気がする。ナツミにはなんとなくそのときのマキちゃんの手のひらの感触が思い出せそうな気がした。

マキちゃん、大丈夫。不幸なんて、きつと来ないから。ナツミは心の中でつぶやいた。

バス通りを渡るため横断歩道の信号が変わるのを待っていると、向こう側の歩道の脇に郵便ポストが立っているのが見えた。

カバンを左手に持ち替えたナツミは、右手でピストルのかたちを作った。そして、人差し指の銃口を赤いポストに向けてと、狙いを定めて声の銃弾を発射した。

「ダーン！」

(出典 沢木耕太郎「銃を撃つ」)

① ———の部分⑥、⑦の漢字の読みを書きなさい。

② 「本当だろうか」とあるが、このときの「ナツミ」の様子を端的に表すことばとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 疑心暗鬼 イ 右往左往 ウ 公明正大 エ 優柔不断

③ 「ナツミはすごく重要なことに気がついた」とあるが、「ナツミ」が気がついた内容を説明した次の文の X、Y に入れるのに適当なことばを、

X は四字、Y は九字で、それぞれ文章中から抜き出して書きなさい。

自分が受け取った不幸の手紙はマキちゃんのものとは X なの

で、Y ものではあり得ないということ。

④ 「わたしは出すのをやめよう」とあるが、「ナツミ」がこのように決めた理由を説明した次の文の X に入れるのに適当なことばを、三十五字以内で書きなさい。

うしろの席にいたおばあさんが X のを目の当たりにし、「わたし」が不幸の手紙を出すことで、それを受け取った相手に同様の苦しみを味わわせたくないと思ったから。

⑤ 「小学生のとき……手をつないで歩いているような気がする」とあるが、このときの「ナツミ」の心情について説明したものととして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア マキちゃんが自分のために一つ前のバス停で降りてくれたことに気づき、大事な友が徐々に同じ時を過ごしてくれたことに感謝している。

イ マキちゃんも不幸の手紙を出さないと宣言してくれたことに安心し、手紙を受け取る人を減らすことができ清々しい気分になっている。

ウ マキちゃんも最終的には自分と同じ考えに至っていたことを知り、昔と変わらない確かなつながりを実感して温かな気持ちになっている。

エ マキちゃんと多くを語り意見を一致したことに満足し、今後どんな不幸に見舞われようとも自分には仲間がいるのだと心強く思っている。

⑥ この文章の表現の特徴とそのねらいについて説明したものととして適当でないのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア バス内での会話の場面では、かみ合わないせりふの応酬を描写することにより、二人の思い違いを際立たせその後の展開に勢いをつけている。

イ ナツミがおばあさんに思いをはせる場面では、すべてを運命として片付ける内面を描くことにより、ナツミの冷酷な一面を浮き彫りにしている。

ウ ナツミとマキちゃんがバスから降りた場面では、「きっぱり」という副詞を二度繰り返すことにより、二人の決意の固さを明示している。

エ 最後の場面では、銃を撃つ仕草と「ダーン！」という擬音語により、手紙を出す誘惑をはねつけるナツミの自信に満ちた姿を印象づけている。

2

次の文章を読んで、①～⑥に答えなさい。ただし設問の都合上、一部省略した箇所がある。(1)～(12)は形式段落を表す。

1 当たり前前のことであるが、現在の科学が世界のすべてを把握している訳ではない。顕微鏡が考案されれば、今まで見えなかったものが見えてくる。シークエンサーが発明されれば、顕微鏡では見えない遺伝子に⑥キザまれた生物進化の痕跡が見えてくる。そういった認識できる情報が増えれば増えるだけ、それに基づいた科学の常識、それが支配できる領域も変わっていく。

2 しかし、現状の科学で認識できないことが、必ずしもこの世に存在しないことを意味しないのなら、では一体、何が「科学的」で、何が「非科学的」なものなのだろうか？ UFOや超能力や地底人だって、将来的に科学になる可能性はないのだろうか？ (中略)

3 実は、そうなのだ。これは非常に厄介な問題であり、ある意味、本質的な問いなのかも知れない。現在、科学の支配が及んでいない未知な領域にも、間違いなく「この世の真実」は存在している。実際、科学の最先端で試されている仮説の数々も、そういった未知領域に存在しているとも言えるし、長い歴史は持つものの、西洋科学の体系には必ずしも収まっていなない東洋医学なんかも、少なくとも部分的にはそうだろう。また、「似非科学」と非難めいた名称で呼ばれている分野も、その一部はこの領域の住人と言つて良い。

4 そういった「科学」とも「非科学」ともつかない「未知領域」は、この世にかなり広大に広がっているし、そこには有象無象の海の物とも山の物ともつかないようなものたちが蠢いている。それらのうちのいくつかは将来、科学の一部となつていくこともあるだろうが、だからと言つて、味噌も糞も一緒に、本当に何でもありで良いのか、これもまた疑問である。

5 この難問に対して、とても科学的な人たちは「科学的に実証されたものだけを信用すべき」という考え方をとり、それが科学者としてとるべき態度のように評されることも多い。私自身はそういった石鹼の香り漂うような、清涼感溢れる考え方に、どこか違和感を持つてしまう方ではあるが、「似非科学」と呼ばれるような胡散の香り漂うものに傾倒する危険性も軽視できないことは理解している。

6 その最大の問題点は、実証されたものに比べて、実証されていない領域ははるかに大きく、一旦、根拠のはっきりしないものを受け入れる精神構造ができてしまうと、どこまでもその対象が広がり、根拠なき後退と言うか、根拠なき前進と呼ぶべきか、そのような「果てしなく飛躍する論理」とでも形容されるべきものに飲み込まれてしまいかねないことである。根拠が薄弱なものに対して、信じる／信じない、の二者択一や、「そうであつたらいいな」的な、アンイナ希望的観測を持つて傾倒していくことはやはり危険なことである。特に根拠を問うことが許されないような「神秘性」を強調するものには警戒が必要であらう。

7 しかし一方、現在の科学の体系の中にあるものだけに自分の興味を限定してしまうことも、真の意味で科学的な態度ではないはずである。科学の根本は、もつと単純に自分の中にある「なぜ？」という疑問に自らの頭と情熱で挑むものではなかつたらうか。その興味の対象が、現在「科学的」と呼ばれているかどうかなど、実に些細な問題である。

8 科学の歴史はこれまで述べてきたように、未知領域の中から新たな科学的真実が次々と付け加えられてきた歴史でもあり、それは挑戦と不確かな仮説に満ちたものだった。何を興味の対象としているかによって、科学と似非科学との間に境界線が引ける訳ではないのだ。

9 もし、科学と似非科学の間に境界線が引けるとするなら、それは何を対象としているかではなく、実はそれに関わる人間の姿勢によるのみなのではないかと私は思う。「非科学的な研究分野」というものが存在するのかどうかは私には分からないが、「非科学的な態度」というのは明白に存在している。科学的な姿勢とは、根拠となる事象の情報オープンにされており、誰もが再現性に関する検証ができること、また、自由に批判・反論が可能であるといった特徴を持つている。

10 一方、根拠となる現象が神秘性をまもつて秘匿されていたり、一部の人間しか確認できないなど、再現性の検証ができない、客観性ではなく「生命は深遠で美しい」のような誰も反論できないことで感情に訴える、批判に対して答えないあるいは批判自体を許さない——そういった特徴を持つものも、現代社会には分野を問わず(政治家等も含めて)、あまた存在している。

11 この二つの態度の本質的な違いは、物事が発展・展開するために必要な資質

を備えているかということである。科学的と呼ばれようが、非科学的と呼ばれていようが、この世で言われていることの多くは不完全なものである。だから、間違っていること、それ自体は、大した問題ではない。間違いが分かれば修正すれば良い。ただ、それだけのことだ。

12 しかし、そういった修正による発展のためには情報をオープンにし、他人からの批判、つまり淘汰圧のようなものに晒されなければならない。最初はとんでもない主張であつても、真摯に批判を受ける姿勢があれば、修正できるものは修正されていくだろうし、取り下げるしかないものは、取り下げられることになるだろう。この修正による発展を繰り返すことが科学の最大の特徴であり、そのプロセスの中にあるかどうか、科学と似非科学の最も単純な見分け方ではないかと、私は思っている。

(出典 中屋敷均「科学と非科学 その正体を探る」)

(注) シークエンサー——DNAの塩基配列などを解析するための装置。

① ———の部分③、④を漢字に直して楷書で書きなさい。  
② ———の部分A、Dのうち、他の三つと品詞が異なるものはどれですか。一つ答えなさい。

③ 「UFOや超能力や地底人」とあるが、これらはどのようなことを言うための具体例ですか。これを説明した次の文の□□に入れるのに適切なことばを、文章中から五字で抜き出して書きなさい。

現時点では非科学的だと思われる□□の中にも、今後解明されていくうちに存在を認められ、科学の一部となつていくものがあるかもしれないということ。

④ 「この難問」について、次の(1)・(2)に答えなさい。

(1) 「この難問」について説明したものととして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 科学が世界のすべてを把握しきれない状況で、隠れたこの世の真実をどのように説明すべきかという問題。

イ 科学の最先端で試されている仮説と東洋医学と似非科学の三者を、どのようにしたら同列に扱えるのかという問題。

ウ 現在は科学的とされているものの中から、将来的に非科学になる可能性があるものだけを見極められるのかという問題。

エ 現状の科学では認識できないあらゆるものを、真実であり得るものとしてすべて受け入れてよいのかという問題。

(2) ここでの筆者の考えを説明した次の文の□X、□Yに入れるのに適切なことばを、それぞれ十字で文章中から抜き出して書きなさい。

科学的に実証されたものだけを信用して□Xししまうと、自分の中の素朴な疑問に挑むことができない。逆に□Yものを何でも受け入れ信じてしまうと、制限がなくなつてしまうので危険である。

⑤ 「科学と似非科学の間に境界線が……それに関わる人間の姿勢によるのみなのではないか」とあるが、科学的な「人間の姿勢」とはどのようなものか。これについて説明した次の文の□X、□Yに入れるのに適当なことばを、□Xは八字以内、□Yは四十文字以内で、それぞれ書きなさい。  
科学は□Xことで発展していくので、それを可能にするために□Yようにしておくという姿勢。

⑥ この文章の構成と内容の特徴について説明したものととして**適当でない**のは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア [2]段落で科学と非科学の境界について問題提起し、両者を区別する観点についての検討を経て、[12]段落で最終的な結論を出す構成になっている。

イ [5]段落では[4]段落の問いに対する自身の見解として、直喩表現を用いながら潔癖すぎる考え方を否定し、似非科学への支持を表明している。

ウ [8]段落ではここまでの議論を踏まえて、科学と非科学の区別は扱う対象とは無関係であるとまとめ、[9]段落からの展開につなげている。

エ [10]段落では非科学的な態度とはどういったものかを詳細に述べ、[9]段落との対比によって、科学と非科学の違いについて明確にしている。

3 次の文章は、「能」の稽古について述べた世阿弥の言葉をめぐる解説文である。これを読んで、①～⑤に答えなさい。ただし設問の都合上、一部省略した箇所がある。

能の大成者世阿弥は、現在にまで残る多くの能の名作を自作自演し、後継者を育て、その経験に基づいて多くの能楽論を著した。それはあくまで能という芸能を演ずる場合の実際的な議論ではあるが、自分の経験から絞り出すような彼の言葉は、人生論としても受け止められるような一般性、普遍性を持ち得ている。「**①**初心忘るべからず」「秘すれば花」など、**②**人口に膾炙した名文句も多い。(中略)

「稽古は強かれ、情識は無かれ(修行にあたっては徹底して強くあれ。慢心による強情はあつてはならぬ)」を芸の掟とした世阿弥は、二十代の役者が「時分の花(若さ故の魅力)」で人気を得ることに対しては「これもまことの花にはあらず」と言い切り、

**A** 「これは一旦めづらしき花なり」と思ひ悟りて、いよいよ物まねをも直にし定め、名を得たらん人に事を細かに問ひて、稽古をいや増しにすべし(これは一時的な珍しきによる花に過ぎないと思ひ悟つて、基本の物まねをきちんと行い、名声を得ている人の指導を求めて、いっそう修行に励まねばならない)。

と戒める。(中略) こと芸道にかんしては「まあまあ」とゆるがせにすることのない厳しさを持っていたのだろう。

が、それもけつして配下の者たちをおさえ付けるための言説ではなく、世阿弥自身の経験に裏打ちされ、心から信ずるところでもあった。少年らしい可愛らしさでちやほやされた後、変声期で声も出ず、腰高になって姿もバランスが悪くなる十七、八歳頃、役者たちは天国から地獄へ墮ちるような経験をすわけど、その頃の修行についての世阿弥の教えは、

**B** 一期の堺(まかひ)こなりと(一生を決める境がここのだと覚悟して)、生涯にかけて能を捨てぬより外は、稽古あるべからず。ここにて捨つれば、そのまま能は止まるべし。

というものである。**③** 外野からの無責任な「がんばれ」ではない。同じ苦しみを経験し克服して第一人者となった世阿弥が言うからこそ、「放り投げずしが

4 田中さんは、全国放送されているテレビ番組で使われている言葉と、自分たちが日常使っている言葉が違ふことに関心をもち、方言と共通語について調べて発表した。次の【田中さんの発表】と、発表に対する【山下さんの質問】を読んで、①～③に答えなさい。

【田中さんの発表】

私たちが使っている言葉には、「方言」と「共通語」があります。まず、方言は地域ごとに特色があります。方言についての研究資料によると、例えば、雨の日に見かける「カタツムリ」を、「デデムシ」や「ツブリ」「ナメクジ」などと言っていた地域があるそうです。方言は、山、河川、海峡などの地理的な境界や、政治的な境界の中で、独自に発達してきました。また、昔、都があった近畿地方を出発点として言葉が各地に広がっていったとも考えられています。方言は地域ごとに違いがありますが、一般に地理的に近い方言同士では違いが小さく、遠い方言同士では違いが大きくなっています。一方、共通語は、日本中どこでも通用する言葉として、主に東京の言葉をもとに作られてきました。全国向けのテレビニュースや不特定多数の人を対象とした文章など、改まった場面では方言よりも共通語が使われることが多いです。全国各地の人が、用件や考えを正確に伝えるために、共通語は必要です。



【田中さん】

【山下さんの質問】

田中さんの発表の中で一つ気になったことがあります。先ほどの「地理的に近い方言同士では違いが小さく、遠い方言同士では違いが大きくなっている」という説明についてです。先日、私が部活動の全国大会で出場選手と話をしたときに、私たちが住んでいる中国地方からは遠い中部地方の選手が、私たちと同じ方言を使っていました。これはなぜなのでしょうか。



【山下さん】

- ① 『方言』と『共通語』があります」とあるが、「方言」と「共通語」の特徴について説明したものと最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。
- ア 方言は異なった地域の特徴ある言葉を寄せ集めて作られたものである。
  - イ 方言は特定の地域内の仲間意識を高めるために利用されるものである。
  - ウ 共通語は特定の地域内だけで共通して用いられている言葉である。
  - エ 共通語は異なる地域の人々が円滑に交流するために役立つものである。

(四枚のうちの三枚め)

みついている以外に手だてではない。笑われても誇られても止めないことが稽古だ」という言葉の真実が、胸を打つのだろう。

(出典 山中玲子ほか「人生をひもとく日本の古典 第二巻 はたらく」)

① 「**①**初心忘るべからず」を現代語訳する場合、一つの助詞を補う必要がある。その助詞を答えなさい。

② 「**②**人口に膾炙した」の意味として最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

- ア 人々の口にもぼって広く世間に知られた
- イ 人々が繰り返し言つて使い古された
- ウ 人々が注意すべき点を的確に言い当てた
- エ 人々への戒めとして口をついて出た

③ 「**③**これ」とは何を指すか。文章中から六字で抜き出して書きなさい。

④ 「外野からの無責任な『がんばれ』ではない」とあるが、これを説明したものと最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

抽象化された一般的な教えではなく、具体的な的確な指図である。

- イ 傍観者の単なる励ましではなく、当事者だけが知る教えである。
- ウ 個別的特殊な激励ではなく、普遍化された人生論である。
- エ 第三者の客観的な見解ではなく、経験者としての慰めである。

⑤ 文章中の世阿弥の言葉であるAとBについて説明した次の文のX、Y、Zの古文から、Yは解説文から、それぞれ指定の字数で抜き出して書きなさい。

Aでは、有頂天になる頃こそ「慢心せず、稽古をX(八字)」と述べ、Bでは、Y(十字)「ような経験をすわ頃はZ(五字)ことこそが稽古そのものだ」と述べている。

② 山下さんの質問の特徴について説明したものと最も適当なのは、次のア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

- ア 自分の体験をもとにして疑問に思った点を解消しようとしている。
- イ 発表の矛盾点にもとづいてより正確な答えを追究しようとしている。
- ウ 問題の本質を明らかにして自分の正当性を主張しようとしている。
- エ 発表の内容に共感して自身の経験をもとに補足しようとしている。

③ 山下さんからの質問「離れた地域で同じ方言を使うのはなぜか」について、次に示す資料を参考にするとどのように答えることができるか。条件に従って八十字以上百字以内で説明しなさい。

条件

- 1 資料と田中さんの発表内容を踏まえて、解答欄の書き出し「離れた地域で同じ方言を使うのは、」に続けて説明すること。
- 2 文末は、「～からと考えることができる。」につながるようにまとめること。

資料「カタツムリの呼び方」

近畿地方	デデムシ
中部、中国地方	マイマイ
関東、四国地方	カタツムリ
東北、九州地方	ツブリ
東北地方北部 九州地方西部	ナメクジ

